

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：82606

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K17488

研究課題名(和文) 就労・育児世代に子宮頸がんの診断・治療を受けた女性の治療後の生活の実態

研究課題名(英文) Post-treatment living conditions of young women who were diagnosed and treated for cervical cancer

研究代表者

小濱 京子 (Obama, Kyoko)

国立研究開発法人国立がん研究センター・社会と健康研究センター・特任研究員

研究者番号：40749082

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：若年成人がん患者の調査(Okamura et al., 2021)の二次分析を行い、治療後のアンメットニーズが生じる時期と変化、アンメットニーズを生じる対象の特徴と関連要因を明らかにした。対象206名の平均年齢は33.7(SD4.3)歳、女性が87.4%、既婚者が50%、就労しているものが56.3%、抗がん剤治療中が7.8%であった。疾患部位は子宮・子宮頸部が38%、乳腺11%。診断からの期間は1年未満が16%、5年未満が51%、アンメットニーズスコアが高かったのは心理的ニーズ、医療制度/情報ニーズであり診断からの期間を経てモニーズスコアは低下せず、支援の必要性が継続していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の二次分析から、この世代のがん患者においては診断からの時期が1年未満であっても、5年以上であっても、ニーズスコアは有意に改善しなかった。診断からの時期にかかわらず、ニーズがある領域は、心理的ニーズ、医療制度・情報ニーズであった。診断からの年数がたった後も、発達段階に応じたケア提供が必要であり、特に同世代の患者が少ないこの世代の支援には、医療制度を含む情報提供にとどまらず、ピア間での情報交換の場の提供やピアサポートを含めた心理支援が有用であると思われる。今後、この世代特有の課題や実態を知るためには、診断時期を特定して調査を実施する必要がある。

研究成果の概要(英文)：A secondary analysis of a survey of young adult cancer patients (Okamura et al., 2021) was conducted to investigate when unmet needs arise and change after treatment, as well as the characteristics of the subjects and related factors that generate unmet needs. The mean age of the 206 subjects was 33.7 (SD 4.3) years, 87.4% were female, 50% were married, 56.3% were working, and 7.8% were under anticancer treatment. Disease sites were cervix in 38% and breast in 11%. Unmet need scores were high for psychological needs and medical system/information needs, and the need scores did not decrease with time since diagnosis, indicating a continuing need for support.

研究分野：がん看護

キーワード：AYA Unmet needs

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

当初の研究方法として、先行調査を踏まえたインタビューと、質的な分析結果に基づいた質問紙調査を予定した。本研究では研究開始が予定より遅れたことに加え、研究者の所属変更や COVID-19 のパンデミックの影響を受け、調査フィールドの確保が困難となった。そのため代替研究として、若年成人がん患者を対象としてオンラインで実施された調査(Okamura et al., 2021)の二次分析を行ったので報告する。

2. 研究の目的

オンライン調査の目的は、思春期・若年成人 (AYA) がん患者のアンメットニーズを明らかにすることであった。AYA は、15~39 歳の幅広い年代と定義され、AYA 世代のがんの診断により、教育、就労、性・生殖の問題など、特有の発達課題を抱えるなど、小児期のがんとも成人期のがんとも臨床上的特徴が異なることが知られる。そのため、治療後の一般的なニーズにこの世代ならではの特征がある。一方で、ほかの世代に比較して患者数が少なく、十分な情報提供や相談支援の体制づくりが困難であることが指摘されている。そこで、Okamura らの調査では長期サバイバーシップに応じたケアが行き届かず満たされていないニード(アンメットニーズ)を明らかにするとともに、アンメットニーズと関連する要因を明らかにすることでケアの方向性を示唆することを目的とした(Okamura et al., 2021)。

この二次分析では、当初の研究目的に照らし、以下のことを目的とした。1. がん治療後のアンメットニーズが生じる時期と変化、2. アンメットニーズを生じる対象の特徴と関連要因、3. 療養生活の両立との関連

3. 研究の方法

岡村らによる調査の二次分析(Okamura et al., 2021)

4. 研究成果

【対象背景】対象 206 名の平均年齢は 33.7 (SD4.3) 歳、女性が 87.4%、既婚者が 50%、就労しているものが 56.3%、抗がん剤治療中が 7.8%であった。疾患の部位は子宮・子宮頸部が 38%で最も多く、乳腺 11%。甲状腺 10%、消化管 9%、卵巣 8%、リンパ腫 7%、血液 6%が続いた。診断からの期間は 1 年未満が 16%、5 年未満が 51%、5 年以上が 33%であった。診断からの期間が短い群で年齢は若く、現在の就労有無の割合に差があり、診断からの期間が 1~5 年未満の群で就労している割合が多い傾向があった。現在のがんの状況では、診断後 1 年未満の群で転移・再発の有無が「わからない」の回答割合が 36.4%と有意に多く、診断後 1~5 年未満の群では再発・転移が「わからない」ものは 6.7~11.8%であった。治療の状況別に確認すると、1 年未満では抗がん剤治療の経験がないもので「転移・再発の有無がわからない」と認識しているものが 36.8%を占める一方、診断後 1 年以上の対象者では、抗がん剤治療の経験がないもので「転移・再発がない」と認識しているものが 75~87.7%であった。すなわち、診断からの期間が短く、抗がん剤治療の経験がないものでは、手術などで治療が完了していたり、再発・転移のリスク把握のための検査が未実施であったりし、転移・再発について医療者から情報を得る機会が少ないのかもしれない。抗がん剤の治療経験では、1 年未満の群で「現在治療中」の回答者割合が有意に多かった。【診断からの期間とアンメットニーズスコアとの関連】アンメットニーズスコアが高かったのは心理的ニーズ、医療制度/情報ニーズであった。低かったのは低い順にセクシュアリティニーズ、身体的/日常生活ニーズ、ケア/サポートニーズであった。この傾向は診断からの期間ごとに違いは認めなかった。またアンメットニーズスコアの 5 つのサブスケールのうち、診断からの期間 (3 群比較) によって平均得点に違いがあったのは心理的ニーズ、セクシュアリティニーズであったが、有意差は認めなかった。また診断からの期間との相関では、心理的ニーズ、医療制度/情報ニーズ、ケア/サポートニーズでは期間が長い群でニーズスコアが低下する傾向を認めたが有意差は認めなかった。この結果から、診断からの期間を経てもニーズスコアが有意に低下せず、支援の必要性が継続していると考えられた。先行研究は診断からの期間を経るごとに援助の必要性が低下していく、あるいは必要な援助が提供されてニーズが満たされるようになるという報告もあるが、必ずしもそうでない可能性が考えられた。【療養生活との関連：アンメットニーズの関連因子】共分散分析により、調整変数の影響を分析した。その結果、診断からの期間、再発・転移の有無、化学療法の経験、就労経験、診断時の年齢 (0-29 歳かどうか) のいずれも、アンメットニーズスコアに影響を及ぼす要因ではなかった。【考察】今回の二次分析から、この世代のがん患者においては診断からの時期が 1 年未満であっても、5 年以上であっても、ニーズスコアは有意に改善しなかったことから、解決されていない課題があることが示唆された。また診断からの時期にかかわらず、ニーズがある領域は、心理的ニーズ、医療制度・情

報ニーズであった。診断からの年数がたった後も、発達段階に応じたケア提供が必要であり、特に同世代の患者が少ないこの世代の支援には、医療制度を含む情報提供にとどまらず、ピア間での情報交換の場の提供やピアサポートを含めた心理支援が有用であると思われる。【研究の限界】対象の特徴として女性に偏っていたことが結果に影響している可能性がある。また今回の調査対象は、がんと診断されて現在医療機関受診中の AYA 世代が対象であった。がんの診断時期が 15 歳以下の小児期であるものと AYA 世代であるものが混在している。先行研究においても、小児がん患者と AYA 世代に診断されたがん患者が混在している調査は多いが、今後、この世代特有の課題や実態を知るためには、診断時期を特定して調査を実施する必要がある。

Okamura, M., Fujimori, M., Sato, A., & Uchitomi, Y. (2021). Unmet supportive care needs and associated factors among young adult cancer patients in Japan. *BMC Cancer*, 21(1), 17. <https://doi.org/10.1186/s12885-020-07721-4>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小濱京子
2. 発表標題 若年世代の子宮頸がん検診受診率を向上する介入に関する系統的文献レビュー
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小濱京子、田代浩徳、永吉友、大浦華代子、有馬英俊、片瀨秀隆
2. 発表標題 熊本発、若い世代による子宮頸がん啓発活動の展開 - K発プロジェクト -
3. 学会等名 第57回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水こころ、東納莉乃子、小濱京子、田代浩徳
2. 発表標題 看護大学生による子宮頸がん検診啓発活動-大学祭における検診車プロジェクト-
3. 学会等名 第24回熊本県国保地域医療学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------